

学 界 報 告

『アウグスティヌス事典』

『アウグスティヌス事典』刊行の計画は以前からあり、その下準備のために数年を費やしたが、今回、アウグスティヌス修道会ドイツ本部の後援を得て、我々の企画はついに実行の段階に入った。「ドイツ学術団体」は本企画のために人的ならびに物的な援助を提供して下さった。

『アウグスティヌス事典』は、アウグスティヌスの生涯、著作および教説にとって重要な概念と事実を網羅する予定である。アウグスティヌスの人と著作を知るためには落とすことのできない、その当時の周辺世界および教会政治上の諸史料は、必要な範囲において顧慮されることになっている。後世に対するアウグスティヌスの広大な影響は、原則として、取り上げられない。

本事典の見出し語はラテン語である。すなわち、アウグスティヌスの著作から取り出されたラテン語がそのまま見出し語として用いられる。それは既に術語選択の段階から、できる限り信憑性を確保するためである。

本事典への寄稿は独・仏・英の三か国語によってなされる。すなわち、各項目は寄稿者の国語に応じて、ドイツ語、フランス語、英語のいずれかによって執筆される。それ以外の国語による原稿はこれら三つの国語のいずれかに翻訳される。我々編集者は、この決定によって、あらゆる言語領域から寄稿者を獲得できることを期待し、同時に、アウグスティヌス研究の国際性に正しく対応したいと願っている。

本事典は五巻からなり、そのうちの一卷は索引にあてられる。一卷の大きさと厚さは『古典古代とキリスト教事典』(RAC)と同じである。本事典は三か国語で書かれるので、事項索引も——勿論原典のラテン語のことは別にして——独・仏・英の三か国語で並記される。この索引によって、本事典は近代の問題設定に対しても答えてくれるであろう。

監修者 C. Mayer (Würzburg-Gießen) および編集者 E. Feldmann (Münster), W. Geerlings (Tübingen), G. Madec (Paris), G. O'Daly (Lancaster), A. Schindler (Bern), O. Wermelinger (Fribourg), A. Wlosok (Mainz) は、出版元の Schwabe (Basel) 共々、この新しい事典の第一分冊を1981年秋には公刊したいと考えている。このお知らせを寄稿への呼びかけとしたい。見出し語の一覧表と編集方針をのせた、本企画の詳しいパンフレットを御希望の方は編集部に請求していただきたい。(Geerlings)

Augustinus—Lexikon, Steinbachtal 2,
8700 Würzburg, West Germany

上記の予告について

私は昨年5月、『アウグスティヌス事典』の編集委員会に招待され、日本におけるアウグスティヌス研究の状況について報告した。編集部のあるアウグスティヌス会には、アウグスティヌス関係の図書が沢山集められ、各委員は必要に応じていつでも資料にあたれるようになっていた。編集委員は年に数回ヴュルツブルクに集まって、二泊三日位の合宿を行っているようだ。編集委員会は若手と中堅の学者で構成されている。近いうちに、その成果の一部が我々の目にもふれることであろう。楽しみなことである。

なお、この原稿は、日本の専門誌に載せるようにと委員会より依頼されたものである。日本の学会に対する期待の現れといえよう。 森 泰男